

# 經 濟 学 部

經 濟 学 科

經 濟 学 部

# 履修の手引と手続

## I 授業科目について

経済学部経済学科における授業科目は、全学共通基盤科目、基本科目、専門科目、関連科目からなる。その他、教員志望者のための教職に関する専門科目や教科に関する専門科目等の自由科目がある。

上記の科目の中にはリベラルアーツ教育およびデータサイエンス教育に該当する科目がある。詳細は本便覧[リベラルアーツセンター](#)、[数理・データサイエンスセンター](#)の項目を確認すること。

## II 授業科目の単位と認定

本学では単位制が採用されている。単位制とは、一つ一つの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修した授業科目に対して、試験その他の方法により学習評価をしたうえでその単位を認定する制度である。

単位認定の評価は、S・A・B・C・P・Nにより単位を修得したことを示す。(学則参照)

## III コース制について

経済学部では、「経済・金融コース」、「産業・グローバルコース」、「データサイエンスコース」の3コースが設定されている。それぞれのコースにより、専門科目の選択必修科目が異なっている。所属コースの選択は、2年次の履修申請時に行う。

## IV 進級条件について

各年次で進級に必要な最低単位数は、次の表に示すとおりである。

1年生 から 2年生へ	次の科目を含んで12単位 フレッシュマンセミナーA・B(4単位中)……………2単位
2年生 から 3年生へ	次の科目を含んで48単位 フレッシュマンセミナーA・B……………4単位 ソフォモアセミナーA・B(4単位中)……………2単位 コミュニケーションのための基礎英語A・B……………4単位 (外国人留学生は日本語IA・IB)
3年生 から 4年生へ	次の科目を含んで80単位 フレッシュマンセミナーA・B……………4単位 ソフォモアセミナーA・B……………4単位 コミュニケーションのための基礎英語A・B……………4単位 (外国人留学生は日本語IA・IB) ゼミナールIA・IB……………2単位

- (注) ①上記の進級に必要な最低単位数には、一部の科目を除いて自由科目は含まない。
- ②授業科目によっては、履修者数の制限を行うことがある。
- ③進級の判断は、教授会の審議・承認を経て決定するものとする。
- ④修業年限は原則4年とし、8セメスターにわたり履修するものとする。
- ⑤最終セメスターで1科目以上修得すること。

## V 卒業について

卒業に必要な単位数は、次の表に示すとおりである。

ただし、自由科目は一部の科目を除いて卒業に必要な単位数には含まれない。

系 列		学部	経済学部
		学科	経済学科
		項目	単位数
基 盤 科 目	全 学 共 通	協創力体験演習Ⅰ	1
		協創力体験演習Ⅱ	1
		協創力実践演習	1
基 本 科 目		フレッシュマンセミナーA・B	4
		ソフォモアセミナーA・B	4
		コミュニケーションのための基礎英語A・B (外国人留学生は日本語ⅠA・ⅠB)	4
		ゼミナールⅠA・ⅠB	4
		ゼミナールⅡA・ⅡB	4
専門科目			導入科目群から8単位, コース指定科目から24単位, 特別科目群から4単位を含み 56単位
関連科目 (外国人留学生は日本語ⅠC・ⅠDを含む)			34
任意選択科目 (専門科目・関連科目のいずれの区分から修得すること)			11
計			124

2年次以上に編入または転部した者については、次のとおりとする。

- (1) 2年次編入または転部した者は、専門科目または関連科目から4単位を「フレッシュマンセミナーA・B」の代替として修得しなければならない。
- (2) 3年次編入または転部した者は、専門科目または関連科目から4単位を「フレッシュマンセミナーA・B」の代替として修得し、「ソフォモアセミナーA・B」の代替として、専門科目から4単位を修得しなければならない。

## VI 履修単位の上限について

各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業要件として修得すべき単位数について、次のように学期毎に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めている。（学則参照）留意して履修申請を行い、進級、卒業に必要な単位数を満たすこと。

年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
単位	22	22	22	22	22	22	22	22

※通年科目の履修単位数は、春学期に算入して計算する。

### (1) 履修科目の登録単位数の上限を超えて履修を認める場合

- ①履修申請を行う学期の直前学期のGPAが3.0以上の場合は当該学期4単位まで、履修科目の登録単位数の上限を超えて科目の登録を認める場合がある。
- ②編入生は、履修科目の登録単位数の上限を超えて登録を認める。
- ③学生の学習状況を勘案し学部で教育上必要と判断された場合、登録単位数の上限を超えて登録を認める場合がある。

### (2) 履修科目の登録単位数の上限として、計算しない科目

- ①卒業に必要な単位数に算入しない科目（一部の自由科目）
- ②授業期間外で実施する科目（インターンシップ、ボランティア等の集中講義科目等）
- ③学外での学習が単位として認められる科目（学外研修、単位互換科目等）

### (3) JEAP 留学者の履修上限単位数については、別途定める。

## VII 授業科目の年次配当と修得すべき単位数

### 1. 年次配当

年次配当とは、それぞれの授業科目を履修するのが望ましい年次を示す。

年次配当は、本便覧の授業科目に記載されており、自身の年次に従って科目を履修すること。

原則として、現在の年次より上級の年次に配置されている授業科目を履修することはできないが、下級の年次に配置されている授業科目であれば履修することができる。

なお、年次とは学年と異なり、在籍年次を示すものである。

よって、休学・留年した者は、特に学部・学科等で定める場合を除き、進んだ年次の配当科目について履修登録が認められる。

## 2. 全学共通基盤科目

全学共通基盤科目はすべて必修科目である。なお、次のとおり履修の条件がある。

- イ。「協創力体験演習Ⅱ」を履修するためには、「協創力体験演習Ⅰ」を修得していなければならない。
- ロ。「協創力実践演習」を履修するためには、「協創力体験演習Ⅱ」を修得していなければならない。

### 全学共通基盤科目

学科	系列	年次配当	授業科目	単位数
経済学科	全学共通基盤科目	1	協創力体験演習Ⅰ	1
		2	協創力体験演習Ⅱ	1
		3	協創力実践演習	1

## 3. 基本科目

基本科目はすべて必修科目である。なお、次のとおり履修の条件がある。

- イ。「ソフォモアセミナーA・B」を履修するためには、「フレッシュマンセミナーAまたはB」の単位を含み12単位以上修得していなければならない。
- ロ。「ゼミナールⅠA・ⅠB」を履修するためには、次の①②の条件を満たし、全学共通基盤科目、基本科目、専門科目、関連科目から48単位以上を修得していなければならない。（ただし、一部の科目を除いて自由科目は含まない）
  - ① 「コミュニケーションのための基礎英語 A・B」の2科目4単位を修得していること。  
外国人留学生は「日本語ⅠA・ⅠB」の2科目4単位を修得していること。
  - ② 「フレッシュマンセミナーA・B」および「ソフォモアセミナーAまたはB」を修得していること。
- ハ。「ゼミナールⅡA・ⅡB」を履修するためには、「ソフォモアセミナーA・B」および「ゼミナールⅠAまたはⅠB」を修得していなければならない。  
また、原則として「ゼミナールⅠA・ⅠB」と同じ担当教員を継続して履修しなければならない。

## 基 本 科 目

学科	系列	年次配当	授 業 科 目	単位数
経 済 学 科	基本科目	1	フレッシュマンセミナーA	2
			フレッシュマンセミナーB	2
			コミュニケーションのための基礎英語A	2
			コミュニケーションのための基礎英語B	2
		2	ソフォモアセミナーA	2
			ソフォモアセミナーB	2
		3	ゼミナール I A	2
			ゼミナール I B	2
		4	ゼミナール II A	2
			ゼミナール II B	2

### (留学生)

学科	系列	年次配当	授 業 科 目	単位数
経 済 学 科	基本科目	1	フレッシュマンセミナーA	2
			フレッシュマンセミナーB	2
			日本語 I A [外国人留学生履修科目]	2
			日本語 I B [外国人留学生履修科目]	2
		2	ソフォモアセミナーA	2
			ソフォモアセミナーB	2
		3	ゼミナール I A	2
			ゼミナール I B	2
		4	ゼミナール II A	2
			ゼミナール II B	2

## 4. 専門科目

### 注意事項

- (1) 専門科目から、56 単位以上修得しなければならない。なお、年次配当が決まっているので、「VI 履修単位の上限について」を踏まえて各年次で計画的に履修し、「IV 進級条件について」「V 卒業について」に留意し、所定の単位を修得すること。
- (2) 専門科目はコースによって選択必修科目が異なるので、各コースに沿った履修計画をたてること。
- (3) 「データサイエンスの基礎」, 「A I プログラミングの基礎」を履修するためには、「A I と経済」もしくは「データサイエンス入門」(関連科目)の単位を修得しておかなければならない。
- (4) データサイエンスコースの3年次配当の科目を履修するためには、「データサイエンスの基礎」「A I プログラミングの基礎」を修得済みもしくはそれに相当したレベルの知識・スキルを持つことが望ましい。

経済学科専門科目

学科	系列	年次配当	授業科目	単位数	経済・金融コース	産業・グローバルコース	データサイエンスコース	履修方法	
経済学科	専門科目	1	マクロ経済学入門	2		導入科目◎		◎印の科目から8単位以上選択必修、各コースの☆印の科目から24単位以上選択必修、◇印の科目から4単位以上選択必修  ◎印、☆印、◇印の科目を含めて56単位以上選択必修	
			ミクロ経済学入門	2					
			日本経済入門	2					
			経済数学	2					
			基礎マクロ経済学	2					
			基礎ミクロ経済学	2					
			世界経済入門	2					
			A I と経済	2					
			スタートアップ企業論入門	2					特別科目◇
			経済学特論A	2					
			経済学特論B	2					
			経済学特論C	2					
			経済学特論D	2					
		2	マクロ経済学	2	☆	☆	☆		
			ミクロ経済学	2	☆	☆	☆		
			金融論	2	☆				
			金融機関論	2	☆	☆			
			財政学	2	☆				
			国際経済学A	2	☆	☆			
			国際経済学B	2	☆	☆			
			人口論	2	☆	☆			
			日本経済論	2		☆			
			経済史	2		☆			
			データサイエンスの基礎	2			☆		
			プログラミングの基礎	2			☆		
			A I プログラミングの基礎	2			☆		
			経済統計	2			☆		
			表計算ソフトによる数量分析	2			☆		
数理統計	2			☆					
経済外書講読	2	特別科目◇							
実践スタートアップ企業論 I	2								
実践スタートアップ企業論 II	2								

学科	系列	年次 配当	授 業 科 目	単 位 数	経済・金融 コース	産業・ グローバル コース	データ サイエンス コース	履修方法	
経済 学科	専 門 科 目	2	地域連携 I	2				◎印の科目から 8 単位以上選択必修, 各コースの☆印の 科目から 24 単位 以上選択必修, ◇印の科目から 4 単位以上選択必修  ◎印, ☆印, ◇印の 科目を含めて 56 単位以上選択必修	
			地域連携 II	2					
			寄付講座 A	2					
			寄付講座 B	2					
			寄付講座 C	2					
			寄付講座 D	2					
			特別講義 A	2					
			特別講義 B	2					
			特別講義 C	2					
			特別講義 D	2					
			マクロ経済学演習	2					
			ミクロ経済学演習	2					
			経済思想史	2					
		3・4	保険論	2	☆				
			証券市場論	2	☆				☆
			経済政策	2	☆				
			地方財政	2	☆				
			公共経済学	2	☆				
			交通経済学	2	☆				☆
			都市経済学	2	☆				
			開発経済学	2	☆				
			環境経済学	2	☆				
			労働経済学	2	☆				
			農業経済学	2	☆	☆			
			産業組織論	2	☆				
			経済地理学	2	☆	☆			
			産業経済論	2		☆			
流通経済論	2		☆						
サービス経済論	2		☆						
福祉経済論	2		☆						
デジタル経済論	2		☆		☆				
アジア経済論 A	2		☆						
アジア経済論 B	2		☆						

学科	系列	年次 配当	授 業 科 目	単 位 数	経済・金融 コース	産業・ グローバル コース	データ サイエンス コース	履修方法	
経済 学 科	専 門 科 目	3・4	ヨーロッパ経済論	2		☆		◎印の科目から 8 単位以上選択必修， 各コースの☆印の 科目から 24 単位 以上選択必修， ◇印の科目から 4 単位以上選択必修  ◎印， ☆印， ◇印の 科目を含めて 56 単位以上選択必修	
			アメリカ経済論	2		☆			
			日本経済史	2		☆			
			ヨーロッパ経済史	2		☆			
			社会科学におけるデータサイエンス	2			☆		
			データサイエンス特別講義Ⅰ	2			☆		
			データサイエンス特別講義Ⅱ	2			☆		
			応用AⅠプログラミング	2			☆		
			ゲーム理論とAⅠ	2			☆		
			機械学習とAⅠ	2			☆		
			計量経済学	2			☆		
			金融データ分析	2			☆		
			応用計量経済学	2			☆		
			経済実験	2			☆		
			経済哲学	2					特 別 科 目 ◇
			経済学史	2					
			地域研究A	2					
			地域研究B	2					

## 5. 関連科目

関連科目から、34 単位以上修得しなければならない。なお、年次配当が決まっているので、「Ⅵ 履修単位の上限について」を踏まえて各年次で計画的に履修し、「Ⅳ 進級条件について」「Ⅴ 卒業について」に留意し、所定の単位を修得すること。

### (1) 外国語選択科目

「中国語ⅡA・ⅡB」，「韓国語ⅡA・ⅡB」を履修するためには、それぞれⅠA・ⅠBを修得しておくことが望ましい。なお、外国語科目において母国語の履修は原則認めない。

### (2) キャリア開発とコミュニケーション

「キャリア開発とコミュニケーションⅡ・Ⅲ」を履修するためには、それぞれⅡについてはⅠを、ⅢについてはⅡの単位を修得しておかなければならない。

### (3) サービスラーニング

「サービスラーニングⅡ・Ⅲ」を履修するためには、それぞれⅡについてはⅠを、ⅢについてはⅡの単位を修得しておかなければならない。

経済学科関連科目

学科	系列	年次配当	授 業 科 目	単位数
経 済 学 科	関 連 科 目	1	経営学	2
			商業簿記Ⅰ	2
			商業簿記Ⅱ	2
			工業簿記Ⅰ	2
			工業簿記Ⅱ	2
			簿記入門Ⅰ	2
			簿記入門Ⅱ	2
			マーケティング論	2
			法学と地方自治	2
			現代社会と法Ⅰ（日本国憲法）	2
			現代社会と法Ⅱ（国際法を含む）	2
			社会学A	2
			社会学B	2
			近世の日本史	2
			近世の女性史	2
			文化人類学	2
			日本の文学	2
			心理学	2
			地域と風土	2
			哲学入門	2
			倫理とは何か	2
			論理学入門	2
			統計学	2
			地球資源の地学	2
			自然災害の地学	2
			コンピュータ・リテラシーⅠ	2
			コンピュータ・リテラシーⅡ	2
			生涯スポーツ論	2
			健康スポーツⅠA	1
			健康スポーツⅠB	1
健康スポーツⅡA	1			
健康スポーツⅡB	1			
基礎リテラシーA	2			
基礎リテラシーB	2			

学科	系列	年次配当	授 業 科 目	単位数
経 済 学 科	関 連 科 目	1	キャリアデザイン I	2
			サービスラーニング I	2
			地域ボランティア論	2
			国際ボランティア論	2
			公務キャリア特講A	2
			公務キャリア特講B	2
			資格英語 I A	2
			資格英語 I B	2
			資格英語 II A	2
			資格英語 II B	2
			Oral English A	2
			Oral English B	2
			English Communication A	2
			English Communication B	2
			留学英語A	2
			留学英語B	2
			ドイツ語A	2
			ドイツ語B	2
			フランス語A	2
			フランス語B	2
			中国語 I A	2
			中国語 I B	2
			スペイン語A	2
			スペイン語B	2
			韓国語 I A	2
			韓国語 I B	2
			ハンガリー語A	2
			ハンガリー語B	2
			ポーランド語A	2
			ポーランド語B	2
			チェコ語A	2
			チェコ語B	2
マレー語A	2			
マレー語B	2			
世界の中の日本	2			

学科	系列	年次配当	授 業 科 目	単位数
経 済 学 科	関 連 科 目	1	地域と大学	2
			グローバル社会と女性	2
			女性とダイバーシティ（女性の働き方）	2
			女性とキャリアデザイン（女性と企業）	2
			国際グローバル研修	2
			海外ビジネス研修ⅠA	2
			海外ビジネス研修ⅠB	2
			海外ビジネス研修ⅡA	2
			海外ビジネス研修ⅡB	2
			海外ビジネス研修ⅢA	2
			海外ビジネス研修ⅢB	2
			海外ビジネス研修ⅣA	2
			海外ビジネス研修ⅣB	2
			海外研修Ⅰ	2
			海外研修Ⅱ	2
			海外研修Ⅲ	2
			海外研修Ⅳ	2
			文化研究	1
			データサイエンス入門	2
			デザイン思考で取り組む地域課題	2
			数学とは何だろうか	2
			統計学で見る世界	2
			コンピュータとプログラミングの世界	2
			世界の文学	2
		自校史研究（建学の精神と大学の理念）	2	
		日本事情Ⅰ〔外国人留学生履修科目〕	2	
		日本事情Ⅱ〔外国人留学生履修科目〕	2	
		日本語ⅠC〔外国人留学生履修科目〕	2	
		日本語ⅠD〔外国人留学生履修科目〕	2	
		2	経営史	2
経営管理論	2			
財務諸表Ⅰ	2			
財務諸表Ⅱ	2			
会計学Ⅰ	2			
会計学Ⅱ	2			

学科	系列	年次配当	授 業 科 目	単位数
経 済 学 科	関 連 科 目	2	経営戦略論	2
			憲法	2
			行政法	2
			法人税法	2
			会社法	2
			民法	2
			財産法	2
			政治学概説Ⅰ	2
			政治学概説Ⅱ	2
			国際関係論	2
			行政学	2
			法学と地方自治演習A	2
			法学と地方自治演習B	2
			社会安全政策論	2
			地理学（地誌を含む）Ⅰ	2
			地理学（地誌を含む）Ⅱ	2
			近世の都市史	2
			女性学概論	2
			ジェンダー文化論	2
			文化論	2
			産業心理学	2
			自然景観論	2
			IT論Ⅰ	2
			IT論Ⅱ	2
			健康スポーツⅢA	1
			健康スポーツⅢB	1
			スポーツ・マネジメント概論	1
			キャリア開発とコミュニケーションⅠ	2
			キャリアデザインⅡ	2
			キャリアデザインⅢ	2
インターンシップ	2			
サービスラーニングⅡ	2			
FP論入門	2			

学科	系列	年次配当	授 業 科 目	単位数
経 済 学 科	関 連 科 目	2	FP 論初級	2
			中国語Ⅱ A	2
			中国語Ⅱ B	2
			韓国語Ⅱ A	2
			韓国語Ⅱ B	2
			日本語Ⅱ A〔外国人留学生履修科目〕	2
			日本語Ⅱ B〔外国人留学生履修科目〕	2
			日本語Ⅱ C〔外国人留学生履修科目〕	2
		日本語Ⅱ D〔外国人留学生履修科目〕	2	
		3	日本史概説Ⅰ	2
			日本史概説Ⅱ	2
			外国史概説	2
			東洋哲学概説	2
			西洋哲学概説	2
			倫理学概説Ⅰ	2
			倫理学概説Ⅱ	2
			キャリア開発とコミュニケーションⅡ	2
			FP 論中級	2
			FP 論上級	2
			サービスラーニングⅢ	2
			職業指導Ⅰ	2
		職業指導Ⅱ	2	
		4	キャリア開発とコミュニケーションⅢ	2
		3・4	人事労務論	2
			日本の経営	2
			原価計算Ⅰ	2
			原価計算Ⅱ	2
			税務会計Ⅰ	2
			税務会計Ⅱ	2
			管理会計Ⅰ	2
管理会計Ⅱ	2			
所得税法	2			
消費税法	2			
相続税法	2			
労働法	2			

学科	系列	年次配当	授 業 科 目	単位数
経 済 学 科	関 連 科 目	3・4	経済法	2
			国際政治論	2
			産業社会学	2
			IT論Ⅲ	2
			IT論Ⅳ	2
			データサイエンスと数理統計	2
			日本語特殊演習ⅠA〔外国人留学生履修科目〕	2
			日本語特殊演習ⅠB〔外国人留学生履修科目〕	2
			日本語特殊演習ⅡA〔外国人留学生履修科目〕	2
			日本語特殊演習ⅡB〔外国人留学生履修科目〕	2
			日本語特殊演習ⅢA〔外国人留学生履修科目〕	2
			日本語特殊演習ⅢB〔外国人留学生履修科目〕	2
			日本語特殊演習ⅣA〔外国人留学生履修科目〕	2
日本語特殊演習ⅣB〔外国人留学生履修科目〕	2			

## 6. 排他条件科目

下記に示す排他条件のある科目は、重複履修することはできない。履修はいずれかの科目を選択すること。

系列	年次配当	授 業 科 目	単位数	系列	年次配当	授 業 科 目	単位数
関連科目	1	データサイエンス入門	2	専門科目	1	A I と 経 済	2

※ 「A I と 経 済」はデータサイエンスコースの重点科目であることから、データサイエンスコースを選択する学生は、「A I と 経 済」の履修が望ましい。

## 7. 教職関連科目(自由科目)

教職関連科目は、学生の希望により選択履修できる。これらの科目は自由科目であり、一部の科目を除いて卒業に必要な単位数に算入されない。

詳細については、教育職員免許状取得のための課程の頁を参照のこと。

学科	系列	授 業 科 目	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次
経 済 学 科	自 由 科 目	教育学概論 A	2			
		教育学概論 B	2			
		教育史	2			
		教職論	2			
		教育課程論 (総合的な学習・探究の時間の指導法を含む)	2			
		生徒指導 (進路指導の理論及び方法を含む)		2		
		教育心理学		2		
		教育方法及び ICT 指導法		2		
		特別支援教育		2		
		道徳教育の理論と指導法		2		
	学校と図書館		2			
	ジェンダー・教育・ダイバーシティ		2			
	スチューデント・インターンシップ I		1			
	スチューデント・インターンシップ II		1			
	特別活動論				2	
	教育相談 (カウンセリングを含む)				2	
	※社会科教育法 A				4	
	※社会科教育法 B				4	
	※公民科教育法 A				2	
	※公民科教育法 B				2	
介護等体験実習 (事前及び事後指導を含む)				2		
教職実践演習 (中・高)					2	
教育実習 I (事前及び事後指導を含む)					3	
教育実習 II					2	

※印の科目は進級・卒業に必要な単位数（関連科目）に算入する。

## Ⅷ 授業科目の履修申請

履修する授業科目は、各年次所定の期間に履修申請をしなければならない。この履修申請は、年間の受講計画をたて、単位を修得する意思表示をする重要な手続きである。履修申請を間違えたために授業科目の履修ができなくなり、その結果、進級はもとより卒業ができなくなる場合もあるので、以下に掲げる注意事項を厳守して誤りのないように履修申請すること。

### －履修申請時の注意事項－

- (1) 当該学部・学科の授業時間割表を参照し、受講したい授業科目の曜日、時限、コマ・コード<sup>※1</sup>、授業科目名、開講期間、担当教員等を確認の上、申請を行なうこと。
- (2) 履修申請の期間及び方法は、各年次初めのオリエンテーションで説明をするので、確認をすること。
- (3) 春・秋学期ともに履修内容照合・変更期間を設けているので、間違いなく申請した授業科目が登録されているかを確認すること。登録に誤りがある場合は、この期間中に学部事務室に申し出ること。
- (4) 履修内容照合・変更期間以外で、登録した授業科目の履修変更（追加・取消等）は認められない。
- (5) 履修申請（登録）をしていない授業科目は、受講しても単位は認められない。
- (6) 同一曜日の同一時限に開講されている授業科目を複数履修申請することはできない。
- (7) 単位を修得した授業科目は、再度履修することはできない。
- (8) 計画的な学習を促すため、授業以外の学習時間を確保することを目的として、各年次毎に登録ができる履修単位の上限が決まっているので、留意して履修申請をすること。
- (9) 指定された期日までに履修申請を行わない場合は、学業の意思なしとみなし、懲戒となることがある。

※1 コマ・コードとは、授業時間割表に授業科目名等と共に記載されている番号で、その時限の授業科目の固有の番号である。

## Ⅸ 正規の履修から外れる場合

### 1. 再履修

履修申請をしたが、単位を修得できなかった授業科目を再び履修することを再履修という。再履修は、原則として再履修のクラスを設けている場合は、そのクラスで受講すること。

### 2. 規定外履修

該当するクラスの授業時間以外のクラスで受講せざるを得ない場合の履修を規定外履修という。

規定外履修をする場合は、予め学部事務室に相談すること。ただし、原則として1年次生の規定外履修は認めない。

## X 成績評価について

### 1. 成績評価の方法

学業成績は、試験（筆記・レポート等）及び授業時の小テストの結果、課題提出状況等をもとに総合的に評価する。授業科目ごとの成績評価方法は、シラバスに記載している。

なお、出席すべき授業時数の3分の1以上を欠席した者は、当該授業科目の修了認定を受けることはできない。ただし、病気又は正当な理由による長期欠席の場合には、特別に考慮されることがある。

### 2. 定期試験および臨時試験

- (1) 試験は、定期試験と臨時試験があり、定期試験は原則として学期末に実施する。
- (2) 試験時間割は掲示等で周知する。

### 3. 試験に関する通則

- (1) 試験場内では、すべて監督者の指示に従うこと。  
監督者の指示に従わない者には退場を命ずることがある。
- (2) 試験場内では、筆記用具・持込を許された資料以外のものはすべてカバンの中に入れ、資料等をむき出しのまま机の中に入れてはならない。
- (3) 学生証は机上の見やすい場所に提示して置くこと。
- (4) 試験開始から20分を経過した後は入室・受験を認めない。
- (5) 試験開始後25分間は退場することができない。監督者が退場を命ずる場合はこの限りではない。
- (6) 試験中監督者の許可を得ないで試験場を出てはならない。
- (7) 試験の行われる学期の授業料未納の者、授業時数の3分の1以上欠席した者は試験を受けることができない。受験資格のない者の答案は無効とする。
- (8) 病気・事故その他正当な事由によって受験できなかった者は、診断書・事故証明その他正当な事由を証明する書面を添えて早急に学部事務室に届出なければならない。届出の遅れや無届けの場合は評価対象外となる。

### 4. 追試験

- (1) 定期試験を病気、その他やむを得ない事情により受験できなかった者は、追試験を受けることができる。試験は、筆記・レポート等により実施する。
- (2) 追試験を希望する者は、正当な理由を証明する書面をもって速やかに学部事務室に届け出ること。
- (3) 追試験は、成績通知書の評価欄に「T」の表示がある科目が対象となる。
- (4) 追試験は、履修（再履修を含む）した年度の学期末に限り受験することができる。

- (5) 追試験は、原則として学期末に実施する。
- (6) 追試験を受験する者は、「追試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。
- (7) 追試験の受験料は、1科目につき200円である。

## 5. 再試験

- (1) 定期試験の結果、不合格となった授業科目のある者は、当該授業科目の担当教員が再試験を行う場合、受験することができる。試験は筆記・レポート等により実施する。授業科目によっては再試験を行わない場合もある。
- (2) 再試験は、成績通知書の評価欄に「F」の表示がある科目が対象となる。
- (3) 再試験は、履修（再履修を含む）した年度の学期末に限り受験することができる。
- (4) 再試験は、原則として学期末に実施する。
- (5) 再試験の受験を許可された者は、「再試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。
- (6) 再試験の受験料は、1科目につき1,000円である。

## 6. 試験における不正行為の懲戒について

- (1) 試験における不正行為は厳正に処分する。
- (2) 本書「城西大学 学内試験等における不正行為の取り扱い指針」を参照すること。

## XI 成績発表

- (1) 成績発表は、原則 Web システムで行う。各自指定された期間中に春学期末試験、秋学期末試験の成績を確認するものとする。
- (2) 成績評価は、下記 XII GPA についての「GP の基準」を参照のこと。
- (3) 成績についての疑問、質問等は早急に学部事務室に問い合わせること。
- (4) 事故、病気等により指定日に成績通知書の交付を受けられない場合は、代理人を定め、成績通知書の交付を受けること。その場合は学生証を必要とする。

## XII GPA について

本学では、「GPA (Grade Point Average) 」制度を導入している。以下に示すことを十分理解しておくこと。

### 1. GPA の意味

- (1) GPA の値とは、自分の成績を数値化したものである。学期、学年毎の GPA や入学からの通算の GPA を比較することで、自らの学習成果の推移を知ることができる。
- (2) GPA の値には、T 評価、F 評価および Z 評価を受けた科目についても計算に組み入れられる。したがって、安易に考えて開講期間の半ばで授業参加をやめた場合などは低い値となる。

### 2. GPA の計算

「GPA」は、下記の基準に基づいて評価した成績の GP (Grade Point) に各科目の単位数を掛けて合計し、履修登録した科目の単位数の合計で割った 1 単位あたりの GP 平均値

(Average) である。仮に、履修した科目の成績がすべて「S」評価の場合は GPA の数値は 4 になり、すべての成績が「C」の場合は 1 となる。

#### 「GP の基準」

成績評価 (表示)	成績評価基準		合否等 / 単位修得状況		GP
S	特に優れた学修成果を達成できている	100~90 点	合格	単位修得	4
A	期待される学修成果を達成できている	89~80 点		単位修得	3
B	期待される学修成果を概ね達成できている	79~70 点		単位修得	2
C	期待される学修成果を最低限達成できている	69~60 点		単位修得	1
F	期待される学修成果を達成できていない	59 点以下	不合格	単位未修得 (再試験を行う場合は 受験資格あり)	0
T	正当な理由により、定期試験の受験等ができなかったため、学修成果の判定ができない		不合格	単位未修得 (追試験の受験資格がある)	0
Z	学則に定める授業出席時数を満たしていないため、学修成果の判定をしない		失格	単位未修得	0
P	合否のみで判定する科目で、期待される学修成果を達成できている		合格	単位修得	対象外
Q	合否のみで判定する科目で、期待される学修成果を達成できていない		不合格	単位未修得 (再試験を行う場合は 受験資格がある)	対象外
N	認定科目		単位認定	単位修得	対象外

[GP × 当該科目の単位数] の合計

GPA = \_\_\_\_\_

履修登録科目の単位数の合計 (T 評価, F 評価, Z 評価を含む)

(注) 不合格となった科目を次年度以降に再履修して合格した場合には、成績は上書きされ、過去の不合格の成績は、GPA 計算式に算入されない。

(注) GPA 計算式に算入されない科目もある。